

令和6年度 学校評価における自己評価について(報告)

認定こども園 鳥取第一幼稚園

1 園の教育目標

- 『豊かな心を持ち 生き生きと遊ぶ子ども』
- 自分で考え、主体的に行動する子ども
 - 健やかな心と身体を持ち、たくましく活動する子ども
 - 友達の気持ちを思いやり、友達と仲良く遊ぶ子ども
 - 素直に感動する心を持ち、創造性豊かな子ども
 - 豊かな生活経験の中から、物事を知的に理解し判断する子ども

研究主題 『音楽を楽しむ子どもを目指して』～子どもが主体的に活動できる
保育教諭の役割とは～

2 本年度重点的に取り組み目標・計画

- 研究主題に沿い、音楽を楽しむ子どもを目指す保育の展開
 - ・子どもの興味関心をふまえて、音楽遊びにつながる遊びを考える
 - ・子ども達が主体的に活動に取り組むための環境や、保育教諭の援助のあり方を考える
- 保育教諭自身が、教育保育の重要な環境になることをふまえ、教育研修に努め、資質向上を図る
- 園舎改築事業への着手に伴い、安心安全な環境を確保しながら保育活動の充実に努める

3 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	評価	取り組み状況
(1)教育目標の達成	A	・年次ごとでいろいろな活動や遊びに興味関心がもてる環境作りに努めてきた。人の話を聞くこと、自分の思いを伝えること、相手の思いに気づくこと、考えて行動することの基礎作りに力を入れてきた。活動に主体的に参加し、人とかかわることを楽しむ姿が見られた。 ・個性や発達段階をふまえ、一人一人の良さを発揮できるようにしたり、頑張っている姿を認めたりすることで、子ども達は挑戦する意欲や自信をつけてきた。
(2) 音楽を楽しむ子どもにつながる保育の展開	A	・音楽活動を通して表現すること、友達と力を合わせて作り上げていくことを積み重ねてきた。運動会でのマーチング、音楽発表会での歌、合奏やダンスを披露し、たくさんの感動を届け、高評価をいただいた。 ・研究主題にそって研究保育を行い、お互いの保育を見合うことで保育教諭自身の自己研鑽の場となった。その中で、保育カンファレンスで成果や課題を議論したり、本時までの活動の流れや環境づくり、その中での育ちの見取りを行い、保育教諭の援助のあり方について考えてきた。子ども達にとっても多様な音楽活動を経験することになり、音楽を楽しむことができた。

(3)安全安心な保育環境と 保育活動の充実	B	・園児、保護者、教職員にとって、日々の保育環境や動線の確保には十分配慮し、安全に過ごすことができた。 ・改築工事の工程で、2学期以降に園庭や屋上が使用できない状況となった。遊戯室や近隣の小学校校庭や公園等の外部施設の利用をし、身体を動かす活動に取り組むよう心がけた。今後も活動内容を工夫していきたい。
(4) 幼児の良い成長につながる保護者との連携	A	・園児の育ち、保護者の思いになって考えられる教職員として日々接してきた。 ・クラス便りやHP、連絡帳を通して、担任の思いや園児のつぶやき、教育の取り組みを、その時々保護者へ理解していただくよう発信してきた。 ・行事では、PTA役員の方と話し合い、園と共通理解をしながら、運営を行い、園行事への理解や子ども達の育ちを感じていただく機会となった。PTA活動においては、保護者の負担軽減に配慮しながら計画し、協力いただいた。 ・個別懇談を年3回行い、また、必要と感じられる時は個別対応をし、一人一人の育ちに寄り添うよう心がけてきた。
(5)特別支援教の取り組み	A	・専門機関との連携を密にすることで、より具体的な取り組みを行う保育を心掛けた。 ・加配職員と担任が連携を取り、指導の在り方について、その都度話し合いながら進めていくことができた。保護者からも信頼を得ながら、進級、就学につなげることができた。 ・園の教職員みんなで、園児の様子を語る会をもち、同じ思いで接して、育ちを促していくことができたと感じている。
(6)健康や安全に関する 取り組み	A	・避難訓練や交通安全指導は計画的に行った。教職員がいろいろな想定に対して臨機応変に判断ができるように取り組んできた。子ども達も放送や保育教諭の話を聞いて、落ち着いて避難することが身についてきた。今年度は、不審者対応について教職員研修を行った。 ・安全については、職員同士で、報告連絡相談を心掛け、日々の保育でヒヤリハットの場面を共有し、話し合いながら連携を心がけてきた。気を緩めることなく、取り組んでいきたい。

4 総合的な評価結果

結果	理 由
A	・保護者が信頼して大切なお子様を預けてくださる安全で安心な幼稚園であること、園児が毎日喜んで登園してくれる園であることを幼稚園経営に置き、全職員で誠心誠意努めてきた。その成果、保護者アンケートでも「一年間を通して、様々な活動をバランスよく経験できた」「親子共に、楽しい園生活が送れた」等の評価をいただき、子ども達の成長を園と家庭で共有することができた。 ・子ども達の実態を基に、めざす子どもの姿や身につけたい力につながる遊びを考えたり、子ども達がやりたいと思う気持ちを大切にしながら、意欲的に活動に取り組むための環境構成や援助をしてきた。その中で、子ども達と同じ目線で一緒に取り組んだり、できた喜びを味わえるような保育教諭の存在が、育ちの大きなきっかけになっていくことを再確認した。 ・職員のキャリアパスを構築することにより、職務に応じた目標に向け、努力すべきことを明確にすることができた。キャリアパスの活用と、自己評価・園評価を組み合わせ、保育の質、職員の資質向上につなげたい。

◎ 評価結果

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取り組みが不十分である

5 取り組む課題

課 題	具体的な取り組み方法
しなやかな心と身体への育ちにつながる遊び	・園舎改築の工程において、引き続き、安全な保育環境や保育活動の確保に努める。 ・昨年度の課題をふまえ、身体を動かして遊ぶ活動を多くもつようにする。 ・毎月『Enjoyスポーツデー』を計画し、全園児で様々な運動遊びを経験し、さらに継続・発展していくようにする。
質の高い音楽教育	・音楽教室教諭が中心となって、リトミック指導・指導計画を作成し、指導力向上につなげていく。 ・音楽を楽しむ子どもを目指し、子ども達が主体的に取り組む音楽遊びを考える。 ・園外での研修に参加し、保育教諭の自己研鑽の場をもつ。
異年齢保育・地域交流	・異年齢の活動を再開し、ドキュメンテーションによる記録を通して、子ども達の活動内容や育ちを検証してきた。さらに充実した内容にしていきたい。 ・地域の方との交流の中で世代間交流を経験をしながら、園の教育保育を広報し、理解を広げていく。
職員の資質向上	・研究主題にそった、園内研究保育の仕方(時間の確保・討議の視点)を検討する。 ・積極的に研修に参加し、自己研鑽に努めると共に日々の保育に活かしていく。 ・キャリアパスによる行動目標を基に個々が自分の目標を明確にし、お互いの職務を理解しながら、連携した運営をしていきたい。

